

整備事業
産地競争力の強化を目的とする取組用

(佐賀県 令和元年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー (対象作物・畜種等名)	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	メニュー (対象作物・畜種等名)	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考					
				計画時(平成26年度)	1年後(平成28年度)	2年後(平成29年度)	3年後(平成30年度)	目標値(平成30年度)			達成率	計画時(平成26年度)	1年後(平成28年度)	2年後(平成29年度)	3年後(平成30年度)				目標値(平成30年度)	達成率	交付金	都道府県費					市町村費	その他			
				面積: 44.3a 生産量: 208.0t (平成26年度)	面積: 93.0a 生産量: 220.0t (平成28年度)	面積: 93.0a 生産量: 220.0t (平成29年度)	面積: 93.0a 生産量: 220.0t (平成30年度)	面積: 92.9a 生産量: 199.7t (平成30年度)			140.7	面積: 44.3a 販売額: 25,029千円 (平成26年度)	面積: 93.0a 販売額: 52,478千円 (平成28年度)	面積: 93.0a 販売額: 52,478千円 (平成29年度)	面積: 93.0a 販売額: 71,376千円 (平成30年度)				面積: 92.9a 販売額: 63,469千円 (平成30年度)	142.6	生産技術高度化施設 低コスト耐候性ハウス 8棟 複合環境制御装置、循環扇、多層被覆装置、暖房装置、炭酸ガス発生機、ハウス内環境測定器、自動天窓装置等 4,968㎡	117,822,600					58,911,000	23,564,000	5,891,000	29,456,600	平成29年1月16日
鹿島市	みどり地区宮白谷トマト部会	野菜(トマト)	【野菜】単位面積当たりの収量の増加	16.1t/10a	-	22.4t/10a	23.7t/10a	21.5t/10a		140.7	トマトの単位面積当たりの収量が47.2%増加した。	野菜(トマト)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	5,650千円/10a	-	5,643千円/10a	7,335千円/10a	6,832千円/10a						117,822,600	58,911,000	23,564,000	5,891,000	29,456,600	平成29年1月16日	反収は毎年度向上し、目標達成している。また、全国的な販売単価の低迷はあるものの、価格補正により販売額も目標達成できた。	従来の施設に比べて品質もよく高収量となっており、地区の最高単収を大きく更新するなど事業による効果が現れている。販売単価の低下はあるものの、高収量により単位面積当たり販売額は増加しており、地域での規模拡大の意欲も高まっている。
福岡市、鹿島市、江北町	みどり地区第八施設胡瓜部会	野菜(きゅうり)	【野菜】単位面積当たりの収量の増加	23.3t/10a	22.3t/10a	26.9t/10a	27.3t/10a	28.9t/10a		71.4	きゅうりの単位面積当たりの収量が17.2%増加した。	野菜(きゅうり)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	6,501千円/10a	6,113千円/10a	6,143千円/10a	7,045千円/10a	8,086千円/10a						138,348,000	69,174,000	27,669,000	6,917,000	34,588,000	平成29年1月12日	作型の前進化及び多収品種の導入により収量増に繋がったが、病害虫の多発により収穫延長が出来なかったため目標数量には届かなかった。また、高単価時期に出荷量が多かった事により販売額の増に繋がったが、収穫延長が出来なかったため販売額の達成が出来なかった。今後も継続して作型の前進化及び分散化を図る。	作型の前進化・分散化により収量増となっているが、ウイルス病の発生により一部で収量の伸び悩みもあり目標収量には届かなかった。また、高単価時期に出荷量が多かった事により販売額の目標達成もできていない。虫媒により感染するウイルス病対策として、ハウス内外の除草・適期防除を徹底し収量向上に努めるとともに、高単価時期推移を検証し作型検討・分散化が今後も図られるよう指導したい。
白石町	白石地区胡瓜施設第一組合	野菜(きゅうり)	【野菜】単位面積当たりの収量の増加	17.3t/10a	-	22.9t/10a	26.1t/10a	27.2t/10a		88.9	きゅうりの単位面積当たりの収量が50.9%増加した。	野菜(きゅうり)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	5,535千円/10a	-	7,050千円/10a	7,892千円/10a	8,323千円/10a						174,862,800	87,431,000	30,000,000	7,500,000	49,931,800	平成29年3月15日	7月の大雨被害及び1月の曇天での活着不良により収量が伸びず、目標達成に至らなかった。また、単位当たりの収量が目標以下だったため、販売額も目標に達しなかった。複合環境制御装置の活用による更なる技術向上及び品種の検討により、収穫期間をさらに延長し、収量・販売額の向上を図る。	作型の前進化により収穫期間を延長し、年々収量は伸びているが、災害等の影響もあり目標単収には達していない。また、目標単収に達しなかったことから販売額の目標達成もできていない。複合環境制御装置の活用による更なる技術向上及び品種の検討により、収穫期間をさらに延長し、収量・販売額の向上を図るよう指導したい。

都道府県平均達成率	93.7%	総合所見	「単位当たり面積の収量の増加」「単位面積当たりの販売額の増加」を達成できたものが野菜(トマト)で1件、いずれも達成できなかったものが野菜(きゅうり)で2件あった。目標を達成した野菜(トマト)1件については、新設ハウスによる増収効果が大きく、価格低迷のなかで単位当たり販売額を収量でカバーしており目標販売額を確保している。目標が達成できなかった野菜(きゅうり)2件については、作型の前進化・分散化や新品种の導入等により年々収量は増加しているものの、病気や災害等により一部で収量が伸び悩んだ時期があり、目標達成には至っていない。また、目標単収に達していないことから、販売額の目標達成もできていない。今後は、関係機関と連携し、単収・販売額増加の目標達成のために品種の検討や収量向上のための支援をしていく。
-----------	-------	------	---

- (注) 1 別紙様式1号の2の に準じて作成すること。
 2 要綱第3の4の(2)のアのただし書きの場合には、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。